

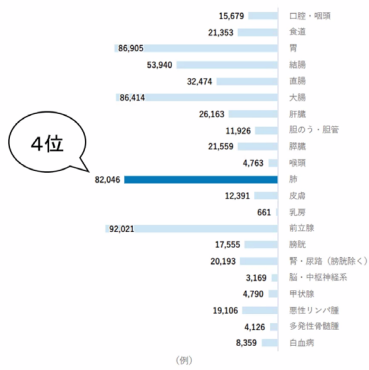
東北次世代がんプロ養成プラン セミナー実施報告書

(セミナー名称) 第22回 がん看護学分野 Web 講演会	
講演者	: 服部 千恵子
所属	: 一般社団法人厚生会仙台厚生病院
テーマ	: がん免疫療法における看護師の役割
担当者氏名: 佐藤 富美子 教授	所属: 東北大学大学院がん看護学分野
内線: 7926	Email: <a href="mailto:fsato@med.tohoku.ac.jp">fsato@med.tohoku.ac.jp</a>
1. 実施年月日:	
令和 4年 2月 25日	
2. 開催場所:	
ZOOM	
3. 関連分野:	
がん免疫チェックポイント阻害薬、がん看護	
4. 対象者:	
一般の方々、医療従事者、学生等、どなたでも	
5. 参加人数: 41名 (講師・教員含む)	
6. 成果:	
<p>今回の講演会も、コロナ禍のためオンラインシステムを利用した講演会となった。講演者は、本学の修士課程の修了生であり、がん看護専門看護師コースに在籍していた。本日は、これまで講演者が取り組んでこられたがん免疫チェックポイント阻害薬に対する看護を高める有効なケアについてご講演いただいた。</p> <p>講演では、免疫療法及び免疫療法による副作用である irAE に関する概要について説明があった。がん免疫療法は副作用などについても解明が模索されている状況であり、ガイドラインや看護の質評価指標は未だない。そこで講演者は、修士課程においてがん免疫療法中の患者に対してインタビュー調査を行い、対象の理解を深めることとした。</p> <p>治療に関する説明内容が複雑で量が多く理解が難しい、無力感と消極的感情によって治療決定を医師に委ねる、治療効果の高い期待と irAE に対する不安がある、多様な irAE 体験が日常生活を困難にする、自覚症状を医療者に的確に伝えることができない、治療の長期化によって経済的問題や通院の負担がある、がんや治療に関する思いや感情を共有する人がいないといった現状が明らかになった。irAE に対するセルフマネジメント能力獲得に向けた支援の必要性を報告した。</p> <p>本講演では、今後のエビデンスとなる質評価指標につながる臨床適応に向けた看護について参加者で共有できたことが成果である。</p>	

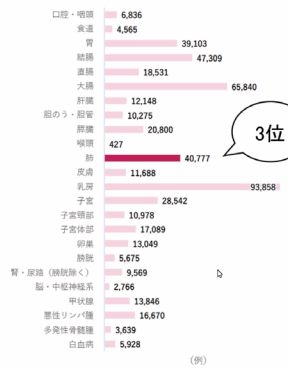
【当日の会場の様子などの写真がございましたら、添付ください】

## 部位別がん罹患数

部位別がん罹患数  
【男性 2018年】



部位別がん罹患数  
【女性 2018年】



元データ：全国がん登録罹患データ (numberシート)

国立がん研究センターがん情報サービス がん登録・統計

吉田詩織



佐藤万織

wamu

川添 望未

